

平成から新しい時代へ

木古内町長

大森 伊佐緒



平成31年の新春を謹んでお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと1月の北陸地方の豪雪に始まり、6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨、8月の猛暑や台風襲来、9月には胆振東部地震並びに北海道全域での停電と災害の多い年でありました。

また、当町では11月26日深夜に木古内駅前バス停付近にいた中国人11人が不法残留、旅券法違反、不法就労の疑いで逮捕される事件が発生し、住民に衝撃と不安が走りました。

一方、平成25年6月から継続中の交通事故致死ゼロの記録は、昨年12月1日に2千日を達成し、住民の皆様による交通安全運動推進の成果であると感謝しております。

新幹線新時代の幕開けから3月には3周年を迎え、木古内駅は北海道最初の新幹線駅として、道南いさりび鉄道の終着駅としてその役割を果たしております。今後一層の利用促進と公共交通機関の維持・確保に努めて参ります。また、駅前には広域観光の拠点として

オープンした「道の駅・みそぎの郷こない」は、昨年10月に150万人目のお客様をお迎えしております。運営する「道の駅」スタッフのおもてなしの心に加え、町民が一丸となった総合力の成果と嬉しく感じております。

引き続き、インバウンド観光や町内観光の充実を図ると共に、近隣自治体との広域連携を強化し、函館市や青森県周辺との連携を積極的に進め、道南地域の活性化を目指して参ります。

移住定住対策では、近隣の知内町・福島町との3町連携での取組を継続して参ります。

道路では、都市計画道路環状線通の開通に引き続き、中央通（下町方面）の整備を着実に実施して参ります。

高規格道路「函館江差自動車道」では、工事に伴い調査を行っている幸運5遺跡から、1昨年の「人の顔」が描かれている極めて珍しい縄文期石製品の出土に加え、昨年6月と10月には長野県が原産地と思われる「黒曜石」の「石ヤジリ」が出土しました。

縄文時代に遠い距離での交流・交易

があったことを示すもので、現在調査中ですが、当町の貴重な財産となることを期待しております。

また、新年度の主な建設工事では、「町営住宅港団地の建替」、「中央公民館・スポーツセンターの設備改修」を行い、避難所としての機能の充実を図って参ります。

更に、第6次振興計画は折り返しを迎えたので、「財政収支計画」との整合性を図りPDCAサイクル（計画・実行・評価・改善）の確立に努めます。

産業では、当町の「はこだて和牛」が北海道あか牛枝肉共励会において、毎年「あか毛和牛賞部門」で活躍し、各賞を受賞するなど、知名度アップに貢献しております。

また、官民一体で森林認証を取得した地元材「道南スギ」の活用を始め、「はこだて和牛」の安定的生産と供給体制づくり、「アワビ・ワカメ・ひじき」などの特産品を全国に発信するなど、一次産業の振興発展に努めて参ります。

更に、商工業では、設備投資や経営の維持などに対する助成や融資制度を引き続き実施し、中小企業・小規模企業の成長を推進して参ります。

保健医療福祉分野では、高齢化率の高い当町は、医療・介護・介護予防・

住まい、及び自立した日常生活の支援を確保する「地域包括ケアシステム」の構築・推進を急いでおります。

昨年スタートした「第7期木古内町老人福祉計画・介護保険事業計画」に伴い「地域包括ケアシステム」の確立と各種施策の実現に努めております。

また、特別養護老人ホーム「木古内恵心園」と介護老人保健施設「いさりび」を統合し、昨年4月1日より新たに「特別養護老人ホームいさりび」を運営しております。

教育では、木古内中学校バレーボール部が全道大会2位の成績で全国大会に連続出場し、また、木古内小学校吹奏楽部が北海道バンドフェスティバルで金賞を受賞し、全日本バンドフェスティバルに出場するなど、元気な小中学生は、各種目において、全道・全国の舞台でいきいきと活躍しており、将来を担う子どもたちの成長に期待をふくらませております。

終わりに、本年も職員全員が総力をあげて「安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指すことをお約束すると共に、町民皆様のご健勝ご多幸を祈念してご挨拶と致します。